

広島県経済の動向

令和7年8月21日

商工労働局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（1）国内経済の動向	
	（2）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（1）鉄鋼	
	（2）自動車	
	（3）造船	
	（4）一般機械	
	（5）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（1）概況	
	（2）景況感・景況感の変化	
	（3）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（1）概況	
	（2）業種別	
	（3）原因別	
	（4）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（1）県内の有効求人・求職の動向	
	（2）県内の新規求人・求職の動向	
	（3）県内の人員整理の状況	
	（4）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	5月	6月	7月
基調判断	景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる		景気は、米国の通商政策等による影響が一部にみられるものの、緩やかに回復している
輸 出	このところ持ち直しの動きがみられる		おおむね横ばいとなっている
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直しの動きがみられる		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	消費者マインドが弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる	消費者マインドの改善に遅れがみられるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	おおむね横ばいとなっている		
消費者物価	上昇している		
企業収益	改善している	改善しているが、通商問題が及ぼす影響等に留意する必要がある	

イ 先行き

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和7年7月29日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	4月	5月	6月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	弱めの動きとなっている		
生 産	横ばい圏内の動きとなっている		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	弱めの動きとなっている		
消費者物価 (除く生鮮食 品、広島市)	前年を上回っている		

イ 県内の経済の先行き

先行きについては、各国の通商政策等の影響を受けた海外の経済・物価動向を巡る不確実性はきわめて高く、県内企業の業況感も幾分悪化している。こうしたもとで、これらの動きが企業の生産動向や賃金・価格設定行動など、県内の経済金融情勢に与える影響を十分注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和7年7月1日公表)】

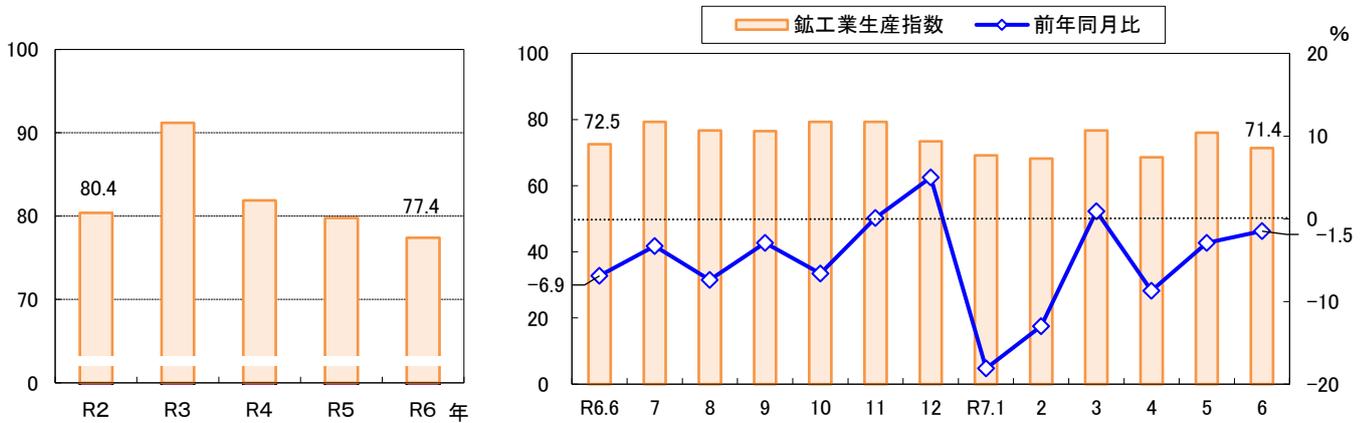
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和7年6月）

6月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年＝100）は71.4で、前年同月比で1.5%減少となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

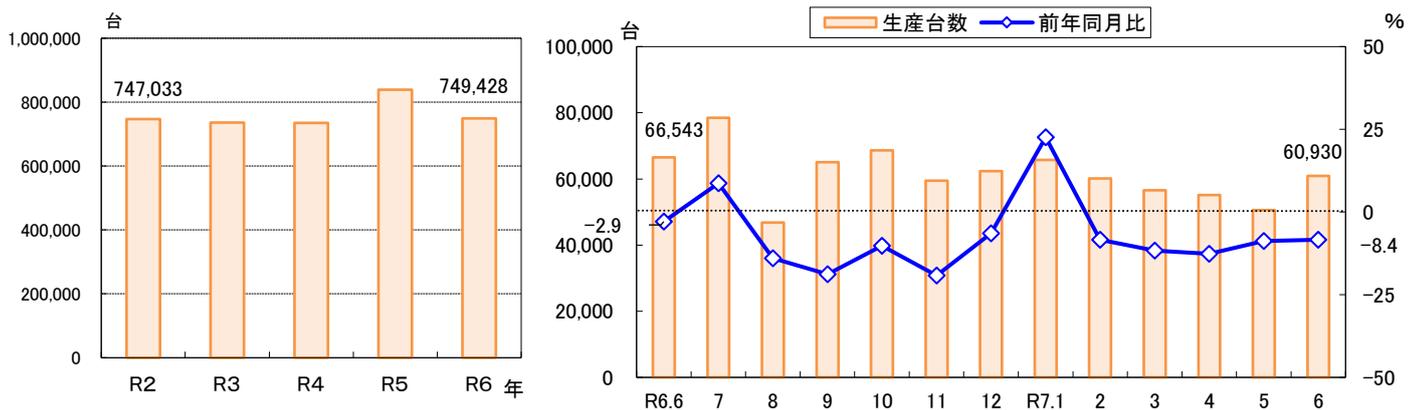


(2) 自動車（令和7年6月）

6月の国内生産台数は60,930台で、前年同月比で8.4%減少となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

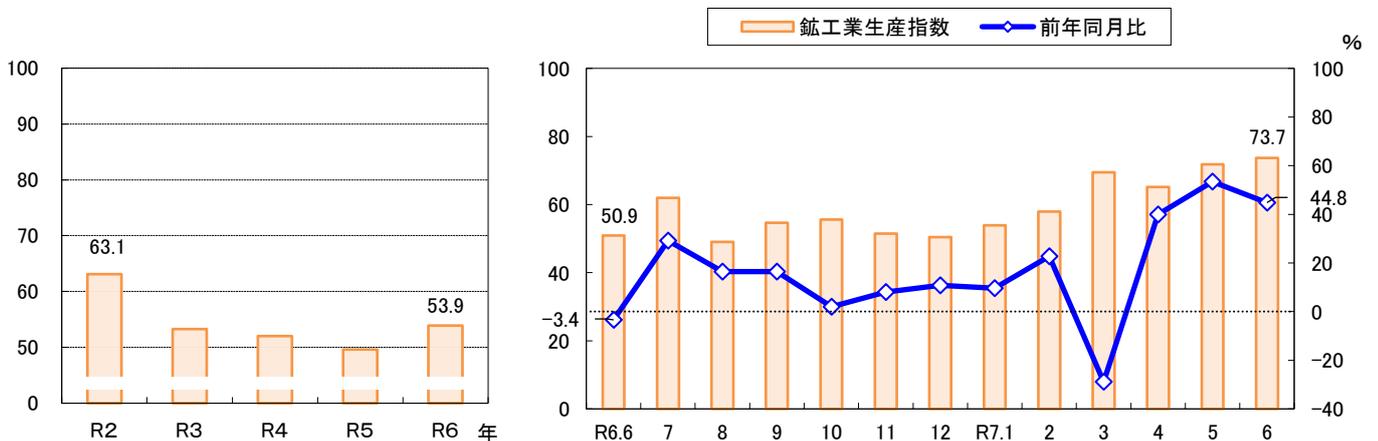


(3) 造船（令和7年6月）

6月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、平成27年＝100）は73.7で、前年同月比で44.8%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

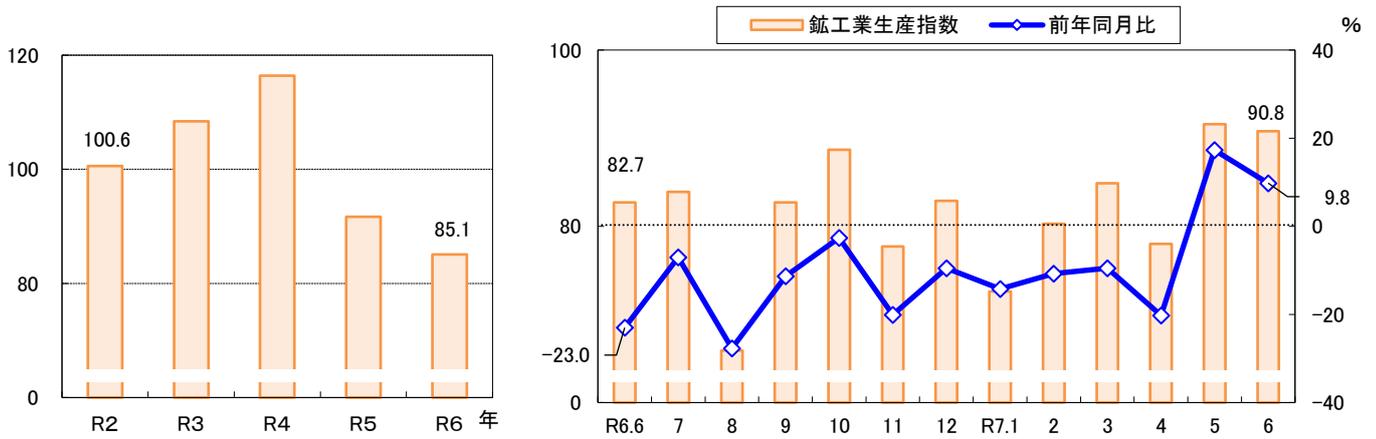


(4) 一般機械 (令和7年6月)

6月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は90.8で、前年同月比で9.8%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

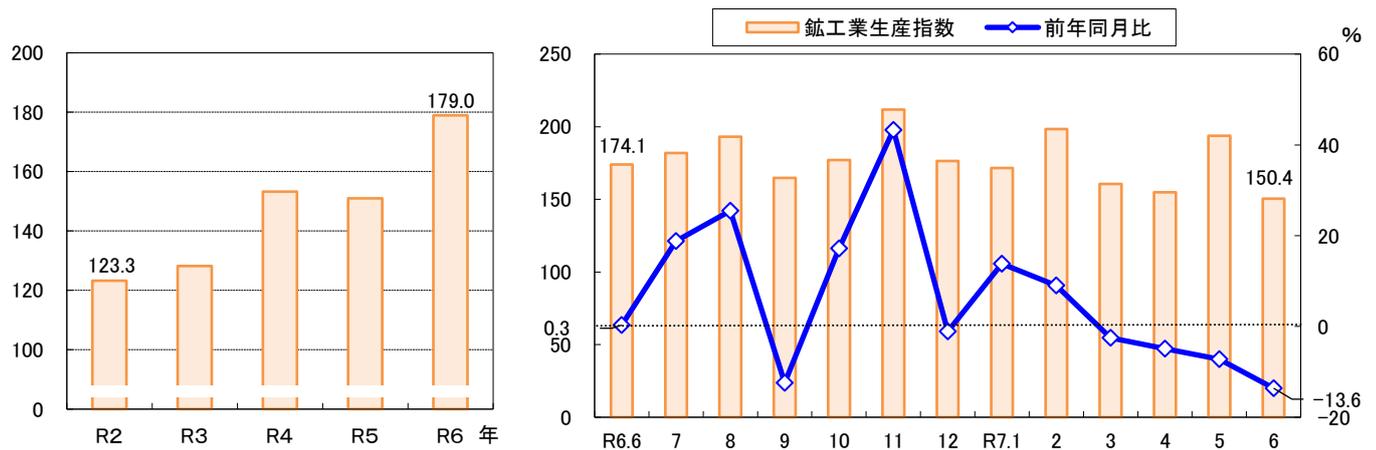


(5) 電気機械 (令和7年6月)

6月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は150.4で、前年同月比で13.6%減少となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和7年6月）

【広島県中小企業団体中央会（令和7年7月16日時点）】

（1）概況

県内中小企業の多くは、原材料費や人件費などのコスト上昇や個人消費の低迷により、収益悪化が続いており、依然として厳しい経営状況にある。加えて、米国の関税措置に伴う影響も懸念されており、今後の見通しについての不透明感が一層強まっている。

自動車関連業種では、6月の国内自動車販売台数は前年同月比+5.2%と6か月連続増加。マツダ車は前年同月比+25.4%と7か月連続増加した。

また、木材業界では、6月の全国新設住宅着工戸数は55,956戸で前年同月比▲15.6%。県内の6月の着工戸数は1,147戸で、前年同月比▲7.4%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「6月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の6月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	5月の景況感	6月の景況感
食料品	やや悪い	普通
繊維・衣服	普通	普通
木材	やや悪い	悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや好況	普通
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（铸件）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	普通

業種	5月の景況感	6月の景況感
一般機械器具	やや悪い	やや悪い
電気機械器具	やや悪い	やや悪い
自動車部品	悪い	やや悪い
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	普通	やや悪い
内航海運	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	5月	6月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	1	0	▲1
普通	4	6	2
やや悪い	13	12	▲1
悪い	2	2	0

(3) 前月（5月）から変化のあった主な業種

業種	5月の景況感	6月の景況感	変化の理由・状況
食料品	やや悪い	普通	当月の出荷量は前月比+3.2%、前年同月比+11.7%。売上高は前月比+1%、前年同月比+10.8%となった。 【中国醤油醸造協同組合】
印刷	やや好況	普通	材料費や人件費などの上昇が収益を悪化させる中で、業界全体として「価格の適正化、不合理な取引の是正」を推進しており、官公需の印刷物発注における入札制度改革などに取り組み始めた。 【広島県印刷工業組合】

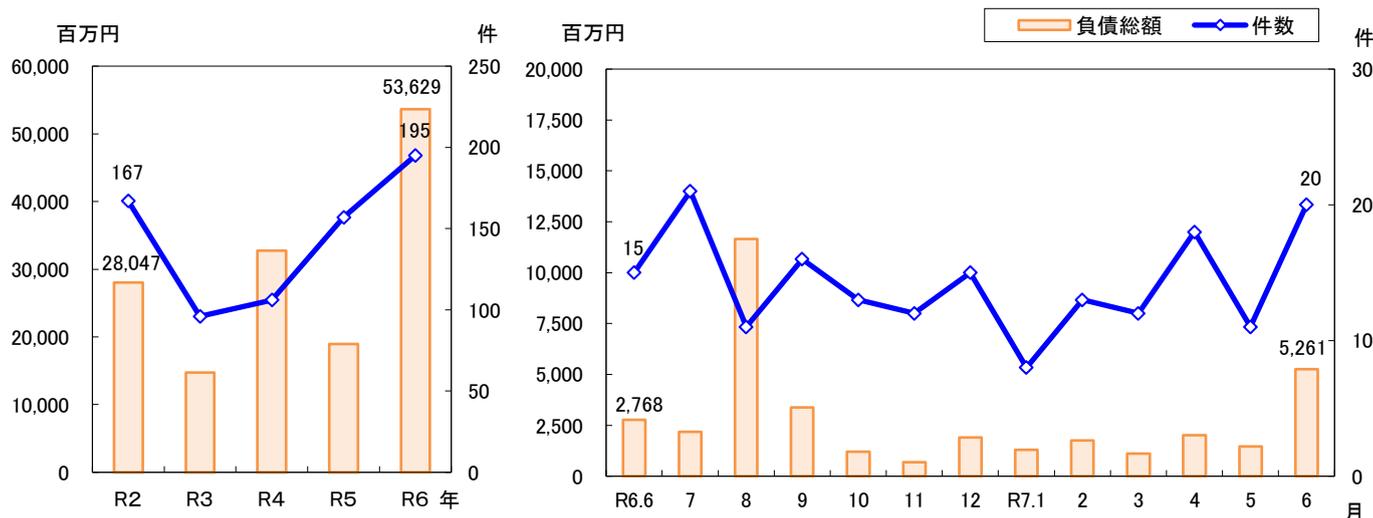
4 企業倒産状況（令和7年6月）

（1）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が20件、総額52億6,100万円であった。
 前月比で件数は9件増加し、負債総額も38億800万円増加した。
 前年同月比では、件数が5件増加し、負債総額も24億9,300万円増加した。
 大型倒産（負債総額10億円以上）は2件発生した。

区 分	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月
件 数 (前年同月比)	18件 (12.5%増)	11件 (45.0%減)	20件 (33.3%増)
負債総額 (前年同月比)	2,005百万円 (12.9%増)	1,453百万円 (42.8%減)	5,261百万円 (90.1%増)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別、月別・前年同月比)



（2）業種別

件数は、建設業が8件、卸・小売・飲食業が7件、製造業が3件、サービス業とその他が各1件となった。
 負債総額は、卸・小売・飲食業、建設業、サービス業、製造業、その他の順となった。

（3）原因別

原因別では、販売不振14件、既往のシワ寄せ3件、放漫経営2件、他社倒産の余波1件であった。

（4）今後の見通し

令和7年6月度の倒産件数は20件で、6月度としては平成25年ぶりに20件を上回った。負債総額は52億6,100百万円で、2年連続で20億円を超えた。前年同月比では倒産件数、負債総額ともに増加する結果となった。

業歴別倒産状況では30年以上が3件、20年以上30年未満が5件、10年以上20年未満が6件と業歴10年以上の倒産が全体の70.0%を占め、前月5月度では業歴10年以上の倒産が全体の63.6%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が14件で最多となり、既往のシワ寄せは3件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は17件で全体の85.0%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は6月度20件中6件発生し、これまでの累計は299件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となっている。

6月度倒産の推移として、令和4年6月は12件、令和5年6月度は10件、令和6年6月は15件と新型コロナウイルスへの支援策が積極的であった令和4年、令和5年は倒産が抑制されていたが、令和6年に反動が生じて件数が増加、令和7年に於いても20件を超える結果となっている。

倒産の内訳として、令和7年4月度、5月度と同様に建設業が倒産の構成比を占める割合が増加しており、少子高齢化を背景とした職人不足や働き方改革原材料供給の長期化などによって施工期間が長期化し、完工まで日数がかかることで売上高を確保できない先も出てきている。

また、広島県内に於いては建設業だけではなく、自動車関連産業も懸念材料を抱える。トランプ関税が30～35%に引き上げられる可能性が出ており、海外輸出が停滞すれば地場産業への影響は避けられず、今後、業績悪化につながる懸念がある。製造業に於いては定期的な設備投資やサプライチェーン確保、商品開発など課題は多く、経営資源の最大限の効率化を図らなければ生き残りはできないものと見られる。

年々グローバル化が加速するなかで少子高齢化による働き手の確保、不安定な供給に伴う安定した仕入れルートや原価管理、販売先確保に向けた積極的な営業施策や海外進出など企業が対応すべき課題は多く、外部環境は厳しくなる一方と見られる。

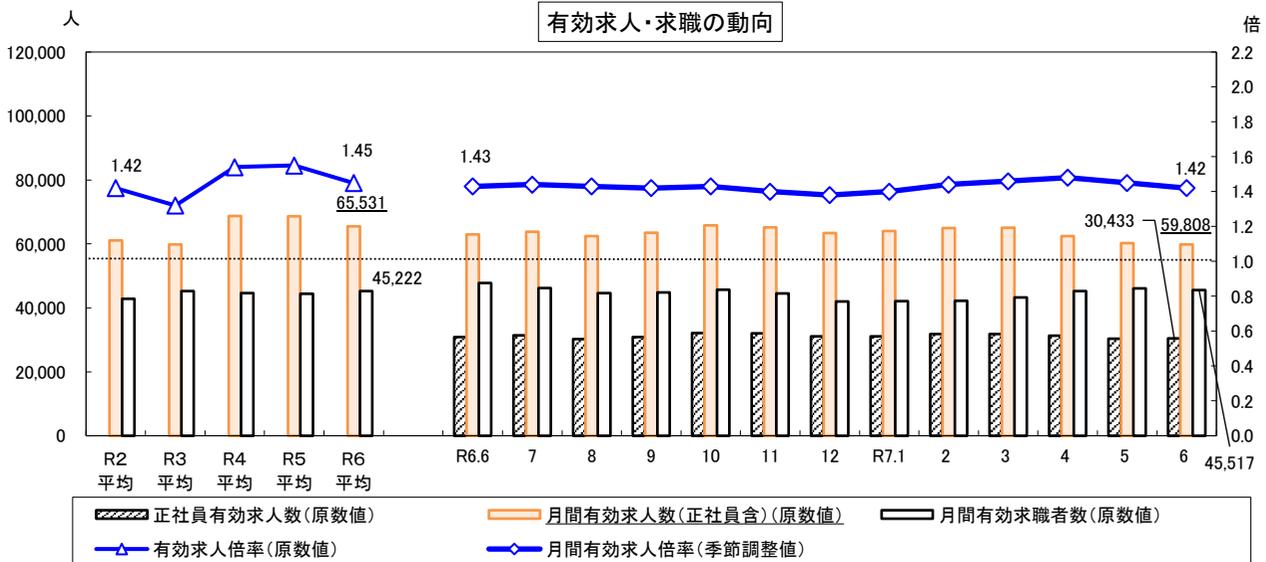
【（株）東京商工リサーチ（令和7年7月3日時点）】

5 最近の雇用失業情勢（令和7年6月）

（1）県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.48倍 (+0.02ポイント)	1.45倍 (▲0.03ポイント)	1.42倍 (▲0.03ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.23倍 (+0.08ポイント)	1.18倍 (+0.06ポイント)	1.20倍 (+0.06ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

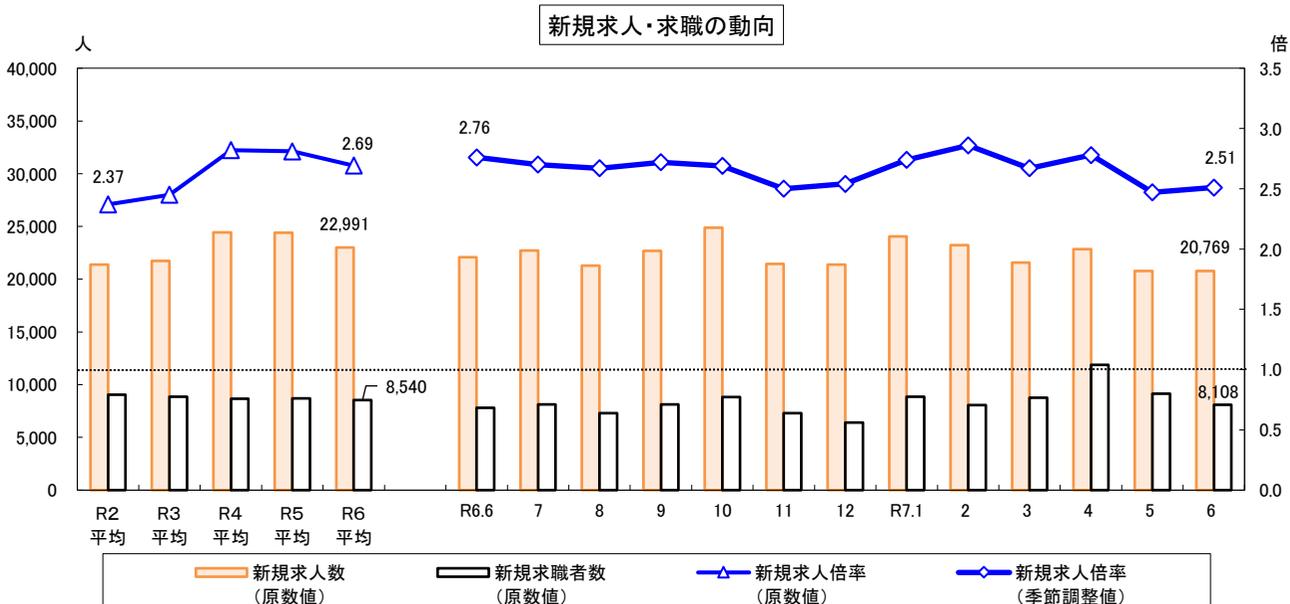
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

（2）県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.78倍 (+0.11ポイント)	2.47倍 (▲0.31ポイント)	2.51倍 (+0.04ポイント)

【広島労働局】

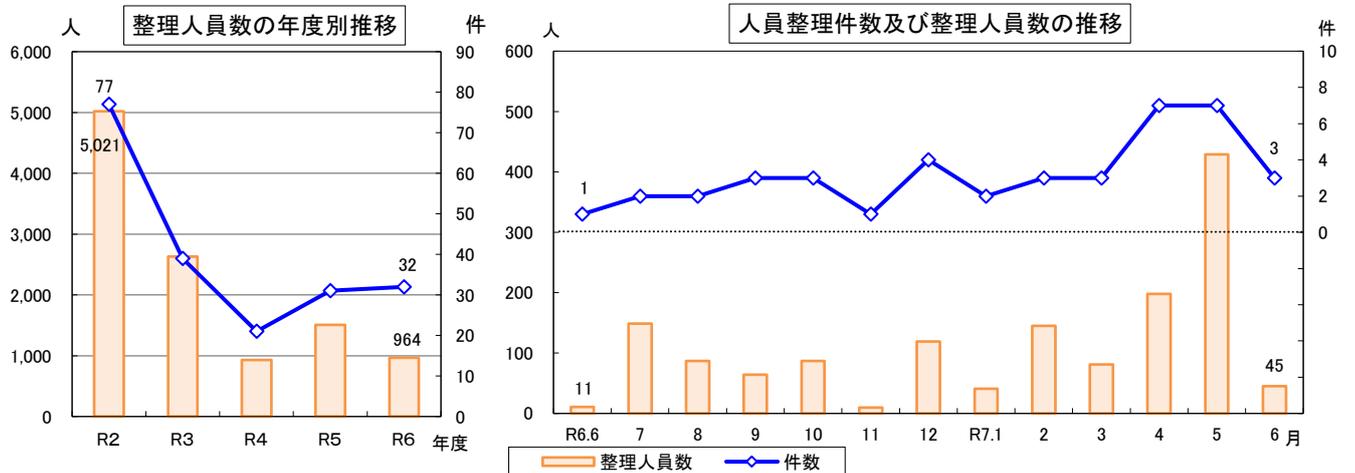


(注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月
件数 (前年同月比)	7件 (+1件)	7件 (+5件)	3件 (+2件)
整理人員 (前年同月比)	198人 (+65人)	429人 (+392人)	45人 (+34人)

【広島労働局】

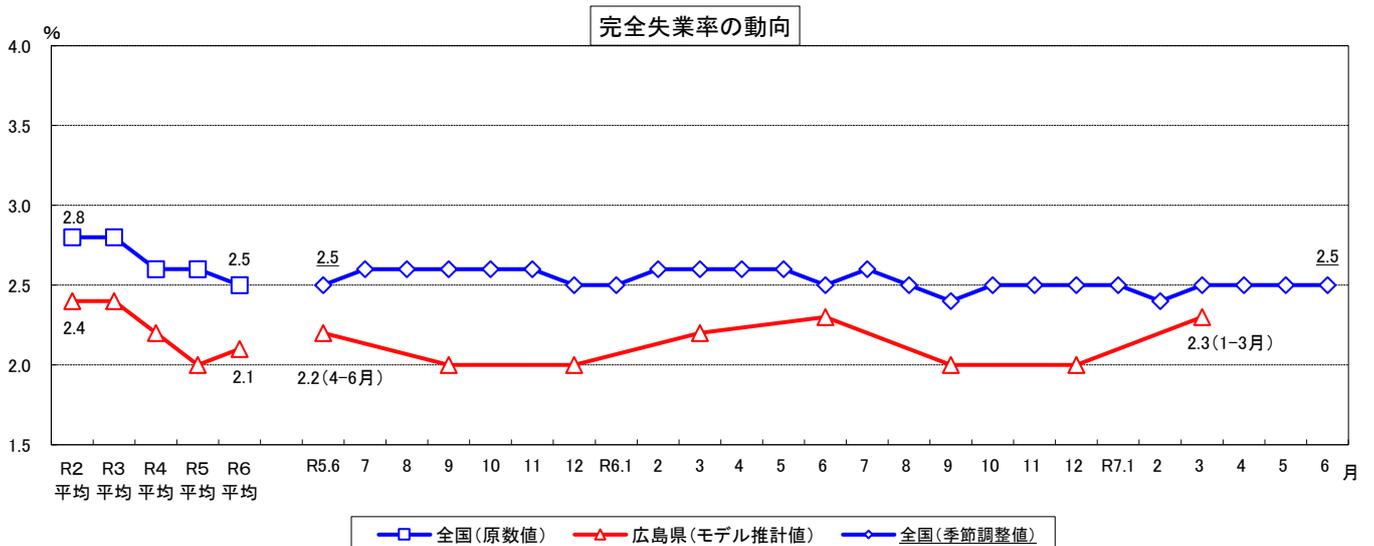


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月
全国完全失業者数 (前年同月比)	188万人 (▲5万人)	183万人 (▲10万人)	176万人 (▲5万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (±0.0ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)

区 分	令和6年		令和7年
	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.0% (±0.0ポイント)	2.0% (±0.0ポイント)	2.3% (+0.1ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。
 ※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。